（別紙4）　　令和　　2　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100290		
法人名	株式会社ﾄｩﾙｰｹｱ		
事業所名	グループホームいちご（2階）		
所在地	水戸市笠原町1614-9		
自己評価作成日	令和　2年　4　月　24日	評価結果市町村受理日	令和　　年　　月　　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3　トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・「便秘0」への取り組み。
　水分摂取、飲み物の工夫、食後5分トイレ、活動などを行い、便秘0を目指しています。
・「自立支援」への取り組み。
　水分1500cc以上摂取、生活リハビリ、ご本人様が楽しく行うことのできる活動、過剰介護禁止などを行い、入居者様自身の意思に基づいて、自由に、自立した生活が送れるよう取り組んでいます。
・「拘束0」への取り組み。
入居者様が安心して生活できる環境を整え、また、拘束しないで済む方法を、職員間で考えながら、拘束0に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・新人研修時や、現場の中で、常に理念を意識したケアの話をしながら、理念を共有している。 ・朝礼の際、理念を暗唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・隣接の中学校の運動会に参加している。 ・今後ボランティアを受け入れる予定		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在、行っていない。 ・今後、地域のイベントなどに参加し、地域の方々との交流を増やしながら、認知症について理解を深めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族様や市職員、民生委員などが参加し、定期的に開催している。行事や活動などの報告、事業所の取り組み、利用者様の近況報告などを行っている。 ・運営推進会議でいただいた意見を参考に、業務改善や新たなサービスを取り入れ		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や市役所に出向いた時などに、情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎月、身体拘束委員会を開催している。 ・身体拘束に関するマニュアルがある。 ・年3回内部研修を行っている。 ・拘束しないで済む方法をフロア会議等で話し合っている。 ・拘束される人の気持ちを理解してもらえるよう介護等で説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・教育委員が先導して虐待防止に努めている。 ・「身体拘束0」の意識づけを徹底している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、研修の内容を職員に伝え、実践していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更があった場合は、ご家族様に速やかに説明をして理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書に苦情相談受付窓口を設置している。 ・ご家族様が訪問された際、利用者様の状況を報告したり、ご家族様の思いを聞くなどして意見交換をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の際、職員面談の際、普段の関わりの中で、職員からの意見を聞き、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の意見に柔軟に対応して、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・現場で職員と関わり、一緒にケアを行いながら、レベルアップに努めている。 ・月1回勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、他の事業所へ行き、意見交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居する時に、生活暦や人生暦、ご本人様の趣味、嗜好、望む生活などを、ご家族様やご本人様から情報収集し、ケアに活かしている。 ・入居者様との関わりを増やし、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・できるだけご家族様の要望に添えるよう努めている。 ・ご家族様に電話連絡する際や訪問の際は、入居者様の様子や生活状況などを報告し、今後の対応などについて相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居する際に、ご本人様、ご家族様の希望を聞き、サービス支援計画書を作成し、安心して生活できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人様に適した役割を持ち、職員や他入居者様と一緒にお手伝いを行っていただいている。入居者様本人のやりたいことを会話の中から見つけ出すようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・生活の状況をご家族様に伝え、情報を共有しながら支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族様や知人と連絡をとり、できるかぎり関係を継続できるよう努めている。 ・ご家族様と外出するなど関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間を取り持ち皆様で過ごす時間を設け、時間を共有し、良好な関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった時、必要に応じて対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・以前の趣味や習慣を把握し、それが継続できるよう支援している。 ・今まで行えたことが困難な場合は、現状を把握し、新たに行えそうなことを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族様からの情報や、ご本人様との日々の関わりの中で、把握できるよう努めている。又継続可能な習慣や環境はできるだけ支援できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・連絡ノートや記録、職員間の口頭伝達によって、情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6か月で見直しを行っている。また、状態に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。 ・利用者様の現在の心身の状態で、その中で、できること、したいことを、ご本人様の立場に立って、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員は情報を共有し、気付きから実践したいことを介護計画の反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人様の現在の状態と、ご本人様、ご家族様の要望を考慮し、ご本人様本位のサービス提供ができるよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・オレンジカフェに参加している。 ・可能な限り公共施設等に出向き、楽しく、豊かな生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回主治医に訪問していただき、利用者様の状態の報告、相談と薬を処方をして頂いている。 ・定期受診や体調不良時は病院の付き添いをしている、可能な限り、ご家族様にも協力いただき受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回、看護師に訪問していただき、利用者様の状態の報告と相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 ・入院時、利用者様、ご家族様の負担が軽減できるよう、連絡を取り合い支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書や重度化の指針の中で、看取りを行う旨が明記してあるが、実際は看取りを行わない方針です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルに沿って、全職員が対応できるようにしている。 ・緊急時対応の内部研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災委員会を設け、年2回避難訓練を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報と肖像権に関する同意書がある。 ・年1回接遇研修を行っている。 ・認知症の程度に関わらず、その人本来の自尊心を尊重しながら対応し、日々のケアを行うようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員が全てお手伝いするのではなく、できるだけご本人様の意思に基づいて行動して頂き、わからない所は説明を交え職員が介入している。 ・職員に遠慮することなく、本人の希望を何でも言える環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者様最優先で対応、利用者様の立場に立って、利用者様のペースで対応することに取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・お化粧、マニキュア支援を行っています。 ・以前の生活習慣を把握し、できるだけ習慣に基づいた身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者様一人ひとりの好みや、苦手な物把握しおいしい味付けできるようにする。 ・誕生日会や行事の際は、季節を感じることのできる、イベント食を提供しています。 ・職員と一緒に味付け、食器洗い拭きを実施		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分1日1500cc確保のため、好きな飲み物やタイミング、温度などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを実施している。入れ歯使用の入居者様は就寝前入れ歯消毒行っています。 ・月2回歯科医に訪問して頂き、口腔ケアや治療を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレで排泄するよう支援しています。立位の困難な方は2人介助にて行っています。 ・排泄サインが見られたら、すぐにトイレ誘導行う ・介助は、できるだけご本人様の力で行って頂き		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分1500cc以上摂取 ・飲み物、食べ物の工夫 ・食後5分間トイレ ・散歩 ・ご本人様が楽しく行うことのできる活動		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ご本人様の入りたい時に、いつでも入れるよう支援しています。 ・入浴があまり好きではない入居者様に対しては、声掛け方法やタイミング、入浴方法を工夫し、気持ちよくは入れるよう心掛けていた		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・希望のある方や、むくみのある方、疲れの見られる方などは、お昼寝をご本人様の状態に合わせて行っています。 ・室内温度や、体勢、体位交換など、ご本人様が快適に入眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の変更の際は、連絡ノート記入し、職員が把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活暦や趣味嗜好、希望などを把握した上で、現在の心身状態を考慮しながら、ご本人様が無理なく、楽しく行うことのできる活動支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご本人様の、希望にできるだけ添いながら、出かけたい時に、行きたい所へ行くように努めている。地図を掲示し地域への外出を促す工夫も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は所持しいないようにしている。 必要な時には、ご家族様と連絡を取り合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入居者様やご家族様の希望があれば、電話で連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者様が、いつでも好きな時に、好きな場所でくつろげるように工夫している。 ・居室や共有スペースの清潔さ、不具合等がないか注意している。 ・入居者様同士が、集って交流できる場所を作っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファーや椅子をさまざまな場所に置くことによって、居心地の良い場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人様のなじみの物や家族の写真をご家族様と相談して、持ってきて頂いたり、写真やご自身で作った作品を飾っている。お体に合わせベッドの位置や高さ、家具の位置の検討を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ご自身の力で生活できるよう、口頭やジェスチャーを交えてわかりやすく説明しながら介助を行っている。 ・カンファレンスを開き、入居者様一人一人の状態を把握することに努めている。		